

埋文やまがた



2004年6月30日
第29号



遺跡今昔物語

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

YAMAGATA PREFECTURAL CENTER FOR ARCHAEOLOGICAL RESEARCH

〒999-3161 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL 023-672-5301(代) FAX 023-672-5586

ホームページ: www.yamagatamaibun.or.jp

メールアドレス: kenkyuuka@yamagatamaibun.or.jp

平成16年度の事業概要

1 発掘調査事業

今年度は、県農林水産部・県土木部・県教育委員会・国土交通省・日本道路公団からの依頼を受け20件の発掘調査を実施しています。

また、9件の整理・報告書作成も行っています。

No.	遺跡名	市町村	業務内容
1	川前2遺跡	山形市	報告書作成
2	小平4遺跡	八幡町	報告書作成・刊行
3	堀端・埴ノ上遺跡	長井市	報告書刊行
4	泉森南窯跡	酒田市	報告書刊行
5	西山遺跡	藤島町	報告書刊行
6	高瀬山遺跡HO	寒河江市	報告書作成
7	北向遺跡	山形市	報告書作成・刊行
8	空沢遺跡	長井市	報告書刊行
9	坂ノ上・長者屋敷遺跡	山形市	報告書作成



No.	遺跡名	市町村	時代区分	種別	調査期間
1	鵜の木館跡	南陽市	古墳～平安	城館跡	5/10 ～ 11/12
2	百刈田遺跡（第2次）	南陽市	縄文・奈良・平安	集落跡	5/11 ～ 10/22
3	六角壇遺跡	南陽市	平安	集落跡	5/11 ～ 7/30
4	西中上遺跡	南陽市	平安	集落跡	8/2 ～ 11/30
5	下中田遺跡	金山町	縄文	集落跡	8/30 ～ 11/26
6	地坂台遺跡	金山町	縄文	集落跡	6/1 ～ 6/25
7	太郎水野1遺跡	金山町	縄文	集落跡	6/1 ～ 9/3
8	太郎水野2遺跡	金山町	縄文	集落跡	6/1 ～ 10/22
9	小反遺跡	鮭川村	縄文	集落跡	5/24 ～ 10/15
10	上野遺跡	鮭川村	縄文・中世	集落跡	5/24 ～ 10/15
11	向河原遺跡（第6次）	山形市	弥生～中世	集落跡	5/10 ～ 8/20
12	梅野木前1遺跡（第2次）	山形市	古墳～平安	集落跡	5/10 ～ 8/6
13	山形城三の丸跡（第3次）	山形市	平安・中近世	城館跡	4/19 ～ 5/28
14	高瀬山遺跡HO（2期）	寒河江市	縄文～平安	集落跡	4/26 ～ 6/4
15	大在家遺跡	高畠町	古代・近世	集落跡	6/7 ～ 9/30
16	山形西高敷地内遺跡（第7次）	山形市	縄文～平安	集落跡	4/19 ～ 5/14
17	亀ヶ崎城跡	酒田市	中世・近世	城館跡	5/24 ～ 9/30
18	梓山a遺跡	米沢市	縄文	集落跡	6/7 ～ 7/23
19	梓山d遺跡	米沢市	縄文	集落跡	6/7 ～ 7/23
20	町在家館跡	米沢市	中世	城館跡	6/7 ～ 7/23

2 研究・普及事業

埋蔵文化財に関する研究と保護思想の普及を目的とした活動を行います。

(1) 調査説明会

発掘調査の成果を広く県民の方々に公開するために調査した遺跡について現地で説明会を行います。あわせて出土した遺物も展示・紹介します。

開催日などは、センターのホームページのほか、新聞や市町村広報誌などでお知らせします。



（埴ノ上遺跡の調査説明会）



（発掘調査報告会）

(2) 発掘調査報告会

12月19日(日)、山形市のビッグウイングにおいて16年度の発掘調査報告会を開催します。

県内で行われた今年度の発掘調査の成果を写真やスライドなどを使い報告します。出土した遺物の展示も行います。

(3) 広報誌・年報の刊行

広報誌「埋文やまがた」を年3回刊行し、県内の学校と公民館、図書館などに配布しています。センターの一年間の活動概要をまとめた「年報」を年度の初めに刊行します。

(4) 調査報告書の刊行

調査・整理が終了した遺跡の報告書を順次刊行します。

(5) 研究紀要の刊行

研究紀要第3号を刊行します。

(6) 出土文化財の保護と活用

センターでは出土した文化財を活用するため、次のことを行っています。

- ◇特別収蔵室（県内各地から出土した遺物）や整理作業（遺物を復元するなどの作業）を見学することができます。
- ◇出前授業（小学校・中学校・高等学校などにセンター職員を派遣し、歴史学習や総合的な学習への支援授業）
- ◇出土した文化財の貸し出しを行っています。



（土器洗浄体験）



（出前授業）



これらの詳細についてはセンターまでお問い合わせください。

遺跡・追跡

これまで発掘調査してきた中から、調査後どのように変貌したのかその後を追ってみました。みなさんのそばにある見慣れた風景の先には、こんな営みもあったのです。



小松原窯跡

平安時代：窯跡

平成11年度発掘調査

長者屋敷遺跡

縄文時代：集落跡

平成13年度発掘調査

坂ノ上遺跡

縄文時代：集落跡

近世：街道跡

平成13年度 14年度発掘調査



縄文時代からいろいろなシーンの舞台となった当地区に、新たな物語をつづる街が生まれてきています。

最終的には、1,700戸の住宅の他小学校やミュージアムパーク等の施設が設けられ、人口7,000人の街になります。



蔵王みはらしの丘（山形市）



城南一丁目遺跡

古くは奈良・平安時代の集落が河川の両岸に営まれていました。

その後、17世紀には山形城拡充に伴い三の丸の一部となりました。

(平成10年度発掘調査)



山形駅西口の再開発に伴い、新しいランドマークとして平成13年にオープンした官民複合施設です。

地上24階のタワーには、県や市の機関の他、高等学校、銀行、ホテルなど、様々な施設が入っています。

霞城セントラル（山形市）





高瀬山遺跡（東北横断自動車道）

東北横断自動車道建設に伴う高瀬山遺跡の発掘調査は、平成6年から4年間行われ、約150,000m²が調査されました。

遺跡からは、旧石器時代から中世までの遺構や遺物が見つっています。東には三条遺跡、西には落衣長者屋敷遺跡がつながります。



酒田と宮城県川崎を結ぶ東北横断自動車道酒田線では、平成5年から27遺跡が調査されました。

平成14年には東北中央自動車道ともつながり、経済、文化の大動脈となっています。



東北横断自動車道酒田線（寒河江市 高瀬山古墳橋より）



米沢城跡

米沢城の二の丸にあたる部分を調査しました。この調査では、幅40メートルに及ぶ大規模な障子堀を検出しました。

また、米沢市で調査を行った所からは、建物跡などが見つかりました。

(平成10年度、12年度発掘調査)



「置賜文化ホール（山形県）」と「米沢市上杉博物館（米沢市）」が一つになった施設として、平成13年9月に開館しました。

置賜地域の歴史、文化、芸術の情報発信基地として中心的な役割を担っています。



伝国の杜（米沢市）



秘宝館

墨書土器

山形市・今塚遺跡



墨で文字や絵が書かれた土器を墨書土器と呼んでいます。奈良時代、国府や国分寺などで行われていましたが、平安時代になると、識字率の増加に伴って一般の集落でも行われるようになりました。県内でも各地から多数の墨書土器が出土していますが、その中から山形市・今塚遺跡のものをご紹介します。

上と中の写真は同じ土器で、外面に人物の絵が、内面には名前等が書かれています。外面に見られる二人の人物は横向きに描かれており、頭に^{ほくとう}櫛頭（当時の役人等が被った冠）を被り、長い袖からのびた手には、^{ごへい}御幣（白く細い紙などの一端を棒につけたもの）を持っている様子がわかります。これは、当時行われた^{はら}お祓いなど、祭祀の様子を示すと考えられる貴重な資料です。一方、土器の内面には「一等書生伴」、「□等書生丈」、「□物□」という文字が三方に記されています。「一等書生」は当時の下級役人の等級と職名を表し、「伴」・「丈」・「物」は人名の一部で、これらの人々が祭祀に関わっていたと考えられます。

下の写真は「生」・「一麗」や「麗」と記された墨書土器で、川の岸边近くから集中して出土しました。これらは、上の人面墨書土器と同様に、お祓いのために書かれたのでしょう。

このムラが営まれた平安時代の初め、出羽国（現在の山形・秋田県）では、鳥海山の噴火や地震、天候不順などにより飢饉が多発し、また^{えみし}蝦夷とのたび重なる争いなどがあって、政情不安定な時期でした。このような社会情勢の中で祭祀が行われ、墨書土器を用いたものと考えられます。

（植松暁彦・須賀井新人）

「埋文やまがた」の購読について

広報誌「埋文やまがた」購読ご希望の方は、当センターまで電話にてお問い合わせ下さい。なお、郵送料はご負担いただきます。

電話 023(672)5301（代表）

■ 編集後記 ■

今号では「遺跡・追跡」と題して、開発事業に先立つ発掘調査時の風景と、開発後の現状とを比較してみました。私たちが身近に利用している諸施設の多くは、先人の歴史の上に築かれています。